

私学助成署名推進ニュース

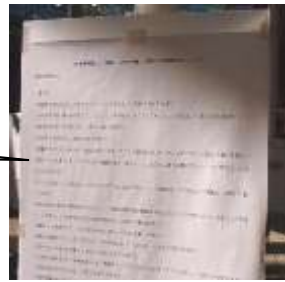
全国私立学校教職員組合連合
No.19 2017年11月7日(火)

埼玉県私立高校フェスティバル 盛大に開催!!

10月29日の宮城、大阪、11月3日の愛知BIGフェスにつづき、11月5日には、埼玉「埼玉県私立高校フェスティバル」、神奈川「神奈川私学のつどい」、新潟「私学のひろば」が開催されました。私学に通う高校生の生き生きとした姿が披露され、県民に私学の学費問題と私学助成運動について理解と協力を求める重要な場面です。埼玉、神奈川では国会議員もかけつけあいさつしました。

北海道、東北北部以南では、晴天となった11月5日、埼玉県鶴ヶ島市のショッピングモール「ワカバウォーク」を会場に、「埼玉県私立高校フェスティバル」が開催されました。地域では恒例となった行事として暖かな陽光が差し込む会場はたくさんの人で埋まりました。その会場を取り巻くように、加盟校のポスターや学校案内が置かれる中、「全国高校生アンケート」の記述欄も拡大して貼り出されました。

アンケートの掲示



3者代表による開会宣言

高校生・父母・教職員の代表のあいさつにより開会が宣言され、武蔵越生高校チア部の演技で幕を開けました。この日、私中高協会主催の「私学文化祭」が別地域で開催されましたが、武蔵越生高校チア部、吹奏楽部、山村国際高校よさこい部、マジック部、獨協埼玉高校ダンス有志、正智深谷高校ダンス有志、自由の森学園高校民俗舞踊部と5学園7団体が演奏・演技を披露しました。

実行委員会は4校の高校生で組織され、司会進行、高校生宣言(作成、発表)、モール内での署名など活発に動きまわりました。さらに実行委員会企画として、「私学助成クイズ」が行われました。会場に〇と×の回答札を配布し、国の就学支援金制度や県の授業料減免補助制度について参加して学べる企画でした。このクイズは実行委員会の一角である山村国際高校生徒会が中心となって展開。会場の方々と「私学助成」を媒介にコミュニケーションを深めました。

また、行田邦子参議院議員(希望)、大野元裕参議院議員(民進党)、西田実仁参議院議員(公明党)のご本人3名、代理1名山口泰明衆議院議員(自民)計4名の国会議員の方も駆けつけてあいさつをされました。「高校生の学びは社会全体で支える事が基本。みなさんが6万5000筆の署名を集めている事に敬意を表します。ともに頑張っていきましょう」(大野議員)、「我が党は衆議院選挙の公約の第1に私学の授業料無償化を掲げた。衆議院選挙後、その実行を安倍首相にも訴えているところ」(西田議員)など、1,000名を超える参加者を前に国会議員のみなさんも私学を応援するあいさつをなさいました。



行田議員

大野議員

西田議員



円形のステージ、客席を取り巻くように署名ブースが設置され、父母のみなさんが「私学の無償化をすすめるための署名です。ご協力ください」と声を高めていました。また、演技を終えた高校生も実行委員会の生徒とともに画板を掲げてモール内で署名を集めていました。埼玉の実行委員会名物のアンパンマン、バイキンマン、ドキンちゃん着ぐるみは今年も大盛況。小さな子どもをつれた家族連れが必ず署名に立ち止まってくれました。



私学助成クイズの後、実行委員会を代表し、実行委員長が高校生宣言を発表。今年全国で取り組まれた「全国高校生1万人アンケート」の声を取り上げ、学費に対する高校生の思いを会場の大人に向けて切々と訴えました。

演技のトリを飾ったのは武蔵越生高校吹奏楽部。そしてファイナーレは吹奏楽部を伴奏に、参加した高校生が舞台上昇り会場の参加者とともに「花は咲く」の大合唱。感動のファイナーレとなりました。



会場が一体となったファイナーレ



「高校生宣言」を発表する実行委員長

高校生宣言

正智深谷 一年 平林陽彩

皆さんは今どのような学校生活を送っていますか。また、送られてきましたか。私たち高校生の一人一人の心の中には挑戦してみたい事、学んでみたい事が沢山あり、自分たちの未来や将来に大きな希望を描いています。ですがその反面、金銭的な問題などにより未来の選択肢を狭めざるを得なくなっているのが今の日本の現状です。

先日行われた全国一万人高校生アンケートにおいて次のような回答がありました。「子どもを私学にかよわせるために家を売り賃貸物件に買った」、「保護者が昼夜を問わず働くようになった」、「兄弟姉妹が進学をあきらめた」等、私学に通うことで家族に大きな影響が及んだ家庭が少なくないことがわかりました。臨んだ未来を掴むために学ぶことに対し、なぜ私たちはこんなにも学費で悩まされなければならないのでしょうか。これでは国や県が掲げる教育目標に近づきどころかほど遠く及びません。

私たちはこの夏、高校生国会議員要請行動などの活動を通し、国会議員の皆さんに私たち高校生の生の声を届け、私学助成について直接お話をさせて頂きました。また、私学助成増額を求める署名活動を行い、保護者の収入の格差や家庭環境に関わらず、安心して自由に学べる環境を求める為、今日まで自ら行動を起こしてきました。

高等学校無償化とは、大人の方々が私たちに対し未来の投資をして下さることだと考えています。私たちは自分たちに与えられた等しく教育を受ける権利を主張し訴えるばかりではなく、与えて下さった機会の分、自分の見聞を上げ、いずれ必ずその発展に役立つはずで。

国や県の大人の皆さん、この国の未来の為にもどうか私たちに望んだ場所で希望する教育を安心して受けさせて下さい。

私たちは微力ですが無力ではありません。

全国の高校生が、お金に困ることなく一日も早く等しく学べる社会を目指すことをここに宣言します。

